



# モノづくりを通して、社会に貢献 できることが私たちの小さな 誇りです

信和株式会社 代表取締役社長

則武 栗夫



**近**年、気候変動の影響により気象災害が激甚化・頻発化し、南海トラフ等の大規模地震は切迫していると云われております。また、高度経済成長期に集中的に整備されたインフラが今後一斉に老朽化し、適切な対応をしなければ負担の増大のみならず、社会経済システムが機能不全に陥る可能性があります。このような危機に打ち勝ち、生命・財産を守り、社会の重要な機能を維持するため、防災・減災の取り組みの加速化・深化を図ることが不可欠であるとのこと。これは我が国の喫緊の課題である国土強靱化のための基本的な考え方です。

日本の国土面積は全世界の0.28%。この小さな国に全世界のマグニチュード6以上の地震の20.5%が起り、全世界の活火山の7.0%が日本にあります。さらに台風、大雨、洪水、大雪、津波などの自然災害が発生しやすい国土です。斯くも厳しい自然環境の中で、この美しい国の未来を持続可能で強靱なまちづくりで守る必要があります。そのまちづくりの重要なリソースの一つが仮設機材であることを、私たちは認識しております。

十年一昔といいますが、私たちの製造する製

品はお客様に大切に管理されて10年以上使用されます。即ち10年以上の性能を維持することが求められるということです。また、その仮設機材は性質上、大量にストックが必要なことから安全性や施工性と同等に経済性が求められ、メーカーは良品廉価なモノづくりをすることが使命となります。建設現場の厳しい環境下で長年使用されても問題のないよう私たちは日々、開発・設計・製造・生産技術・サービスの向上に努め、「品質に絶対妥協をしない」という先代からの教えを心に刻み、より一層の研鑽を積んで参ります。

十年一日のような、美しい田園風景が弊社の本社や土倉工場の周りには広がります。皆さまのおかげで、この地で40年以上にわたり仮設機材に携われたことに心より感謝しております。大切な生命、そしてこの美しい街並みや生活をこれからも守り続けるために、私たちは社員一同で愚直にモノづくりに取り組み、少しでも社会の発展に貢献できれば幸甚に存じます。

2022年はコロナ禍からの復活の年になるよう祈念し、巻頭のご挨拶とさせていただきます。